

2023年6月7日

学校法人三幸学園
東京リゾート&スポーツ専門学校
校長 庄司 一也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 齊藤 貴雄

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 齊藤 貴雄（学校法人三幸学園 飛鳥未来きずな高校 お茶の水キャンパス 教頭）
- ② 伊藤 啓司（株式会社ルネサンス ヘルスケア事業本部 部長）
- ③ 中谷信太郎（株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 学生第3事業部
兼 総合営業本部 総合営業部 部長）
- ④ 並木 宏也（2022年度卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月5日（会場 東京リゾート&スポーツ専門学校 203教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 東京リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 陶山 毅

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 齊藤 貴雄

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来35年以上にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技能を十分持ちながら、常に変遷する社会に対して柔軟に対応するため日々研究を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

そして、学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、学内で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「スタートアッププログラム」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(ア) 業界に特化した専門人材を育成するための教育の実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することに注力している。

教育理念である「技能と心の調和」実践していくため、全教科で授業ガイダンスを実施し、教科の意義や魅力を伝える時間を設けることで授業への意欲向上に努め、日々の授業の中でも教員から現場でのやりがい・資格の大切さを伝え続けて頂くように浸透を進めてきた。

結果として、資格取得率や業界内就職率は向上してきているので、引き続き社会に求められる人材育成・教育の質向上を目指していく。

(イ) 業界で活躍できる人材を育成

各学科で「人材育成プラン」を元に重点教育項目を作成し、4月の全教職員会議にて全教職員への目合わせを行ってきた。学科チーフを中心に、担当教職員との学科会議を実施することで、学科毎の角度ある教育の質向上を実現できるように計画をしている。また、各授業・教科担当毎に、日々の授業の中で仕事のやりがいや魅力を伝えることでより将来への目標への達成意欲を高め、生徒の「できない」を「できる」に変えていくことに注力いただくよう、先生方に働きかけている。但し、「個々に応じた伝え方」や「魅力ある授業展開」という点では生徒満足度にまだまだ課題がある為、学校運営側・担任陣からの日々の働きかけに課題が残る。また、即戦力になるために関連施設実習で質の高い教育効果を提供する企業連携を推進し、業界内への就職者を増加させるため、さらに連携する企業をもっと精査する必要がある

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- 学校の理念や将来構想などは、オンライン保護者会や、冊子を作成し広く共有しているが、年間通じた保護者連携(継続しての発信)や、生徒の理解・実践に課題が残る(2023年3月実施の保護者会については昨年度より参加者が向上した)
- 教育目標、育成人材像はスポーツ業界のニーズ(現場の声)を踏まえたものとなっているが、学校が定めている生徒指導方針(ルールなど)と現代社会との格差も少なからず発生している

② 今後の改善方策

- 継続的な保護者との連携の仕組みを検討する
- それぞれの学科の業界関係者から業界理解を目的として講話等の機会を設け、生徒が教育内容と業界に必要な知識・技術の連動性を理解することを目指す。業界の現状とあわせた、ルールの見直しを検討していく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・業界では未だ身だしなみの縛りはあるが、多様性の時代でもあり、価値観は尊重し始めている。(伊藤委員長)
- ・教育理念は、入学者向けの研修として実施している「スタートアッププログラム」での導入があった為、入学時は浸透したが学校生活を送るにつれ薄れていく様子があり、2年間を通して継続性に物足りなさがある。校内に掲示をすればもっと浸透が深まるのではないか。(並木委員)
- ・保護者との連携は大切だが、難しい部分もある。高校では、こまめに連携をとり、悪い事だけの連絡ではなく良い事も、保護者へ報告を入れる等担任が連携するよう心掛けている。(齊藤委員長)
- ・スポーツ業界が、総合型から細分化されている。学校での学びの共通の技術と知識をどの様に応用して使えるのかが今度大切になる。(伊藤委員)

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- 事業計画に際し、中期計画を策定しているが計画遂行に向けた運用が課題となる
- 制度は整備されているが、繁忙期の勤務状況は課題が残る
- 情報システム化は学園の専門部署中心に整備されてきているがそれを効果的に活用する課題は残される

② 今後の改善方策

- 中期計画の達成を目指し、具体策の策定を実施し運用していく
- 勤怠管理の改善へ向け、業務遂行力の強化や適材適所の配置など適正化を目指す
- 情報システムの活用能力の強化を目指し研修会の実施などを強化

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・システムによる情報公開や授業も、荷物の軽量化にもなり魅力的だが、記憶するには、紙媒体での確認や学びの大切さを感じた。（並木委員）
- ・寮でもアプリによる契約のやり取りが主流になっているが、保護者様は紙媒体を所望する事が多い為、両方対応できるようにしている。（中谷委員）
- ・教職員の健康管理の一端を担うために、2年生が授業で教員に健康アドバイスをする等、新たな取り組みがあっても良いのではないかと。企業の健康経営も重視されているので、長時間労働や睡眠不足等何がいけないのかを生徒が考え、企画・提供する事もよい学びの場になると感じる。（伊藤委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

学科のカリキュラムは体系的に組み立てられているが、講師への浸透や理解については定期的に確認する必要がある。

産学連携活動は事前事後学習を設定し、学びとの連動ができるようになっているが、任意参加として設定しているインターンシップ実習(授業科目と連動)については辞退者が発生するなど課題が残る結果であった。

ICT 教育の推進へ向けた教職員の知識・理解の向上がより必要となる

② 今後の改善方策

年3回行われる全教職員会議の際に、授業内容の質向上に向けて、専門的な観点で講師とのすり合わせを強化していく

インターンシップ実習については、任意実施ではあるがその目的と意義の伝え方などを現場ともすり合わせ、展開をしていく。

ICT 教育推進に先端技術を活用している企業など情報交換を行い、必要な技術や知識を適宜、教授できる関係性構築する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・インターンシップに適応できる生徒と出来ない生徒の格差はある。現場を知らない生徒も多い為、インターンシップ前に利用者として体験する事も大切なのではないか。またインターンシップ前後のフォローアップも大切と感じる。学校側として、インターンシップの質を高める為には意図を企業側にも明確に伝えるとよいのではないか。(伊藤委員)

・学生時代インターンシップに参加しなかった理由は、報酬がない事や時間がない等が理由の為、任意参加にしたのは良いと思う。しかし、インターンシップに参加する事で将来に有益となるので、どのような企業があるのか等、業界の情報をもう少しホームルームにて共有したほうがよい。(並木委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- 就職率は向上してきているため、今後は業界内就職率の質の向上を課題に取り組んでいく。
- 全体として資格取得率は向上しているが、一部の資格は更に合格率を高めることができる。
- 退学率低減を目指し、初期教育から入学後のイメージ格差を解消することやスクールカウンセラーの有効活用など取り組んでいく必要がある
- 卒業生との関わりについては専用アプリケーション「Sanko Gate」と卒業生サイト「SANKO LINK」の定着が課題となる。

② 今後の改善方策

- 業界内就職率については学科毎に課題がある為、早期から就職活動に取り組めるような行事開催時期の設定、1年次から職業教育・講話・体験などを取り入れ、業界の魅力を伝えるようにしていく
- 退学率低減に向け、生徒の状況をより把握するため面談を実施し接触機会を増やすことや、スクールカウンセラーの有効活用をしていく。
- 事務的な管理面で出欠状況を早期確認できる体制を整えることで退学防止へ繋げることと、保護者からの協力も得ながらの生徒支援が重要課題となる
- 卒業生との繋がりを強化するため、就職先の企業訪問や卒業生講話などの機会を作ることで関係性強化を目指す

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・新卒の採用基準に変化はないが、中途採用は、今年度より高卒採用を開始変えている。（中谷委員）
- ・今まで最終キャリアを見据えて、採用していたが今は長期より短期成長も視野に入れている。また、人材不足の観点より、スポーツ業界も高卒での採用も増えている。（伊藤委員）
- ・学校教育の入学後のギャップとしては企業側からすると、大切なことを学ばせていると思うので、学校→現場でのギャップは感じない。だが、生徒側からすると授業内容も含め難しい事が多くギャップを感じるのではと思う。（伊藤委員）
- ・高校では、学びのギャップを無くすことは入学時よりキャリア教育として伝えている。その為、中途入学者への動

機づけは少し大変な部分もある。また教員側からだと言われづらいこともあるので、卒業生や企業様から動機づけを依頼している。(齊藤委員長)

・在校生からすると、就職・資格・学校生活等に関して、①卒業生②企業様③担任の順で耳を傾けやすい。卒業生として、在校生にアプローチできるので協力したい。(並木委員)

・入学時期によって退学率の変化はあるのか？その業界への覚悟の時期が短いと、退学する傾向があるのであれば、高校側よりアプローチ方法の検討が必要かと感じる。(齊藤委員長)

・コロナ禍で退学率は減少したが、アフターコロナで授業がオンラインから対面に戻り退学率増加した。しかしオンラインの授業形式は課題提出や通学等、学生にとってメリットも多かった一方、学校生活の満足度は低かったと感じた。(並木委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

学生相談に関する体制は整備されているものの、活用率については課題がある。

保護者との生徒情報の共有・連携は図れているが、退学等改善されていないケースも多く改善率に対しては課題が残る

② 今後の改善方策

学生相談に対し事例などを共有することで活用へのハードルを下げ、また1人担任制ではなく、学科担当制をとり学科教員がいつでも相談に乗れるような体制をつくっていく。

保護者との連携について、情報共有で終わるのではなく、課題の改善へ向けた方向性を双方で確認をし、具体的な支援を決め実行していく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・進路・就職に関しては、休み時間に担任へ相談する機会は多かったと感じている。キャリア教育の授業は、社会人としてのキャリア教育だったので、もう少しスポーツ業界のキャリア教育を受けたかった。（並木委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

プロジェクター・スクリーン等の経年熱価などの備品故障がある

② 今後の改善方策

備品の定期的な点検の仕組化と、使用ルールの徹底、周知し備品故障の改善に努める。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

18歳人口減少や業界不安などによる入学者減少

教育成果を伝えるため産学連携や就職実績などタイムリーな情報発信をしていく必要がある

② 今後の改善方策

オープンキャンパスなどで業界の情報を丁寧に生徒・保護者へ説明をし、業界理解の向上へ努め、卒業生の実績をまとめたツールを作成し、卒業後のキャリアが見える化することで職業・学校の魅力を周知できるようにする

WEB や SNS を通し学校の情報をタイムリーに発信し、学校の魅力を伝えていく

スポーツ業界の魅力や安定を伝える為にも、業界と連携した広報活動の実施を計画的に行う

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・貴校は楽しい学校生活や生徒の様子の SNS が多い。他校は、学びの動画や寮の動画があってリアルに入学後の授業や生活を感じる部分があるので、そのような SNS があっても良いと思う。（並木委員）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価の問題点への改善へ向け努めているものの、すべてが改善できているわけではない

② 今後の改善方策

正確な情報を元に、定量的な目標を設定し具体的な施策を各担当にて策定し運用をしていく

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

□学校の施設などを活用し、学校特性を活かした地域貢献の体系化。地域住民・近隣幼稚園や保育園の園児が参加できるような場を生徒の実践の場の提供はできているが、健康増進やフィットネスクラブ的な提供はできていない。

② 今後の改善方策

□年間計画として、近隣との連携内容の構築を行う。また、学科特性を踏まえて健康増進系の内容の取り組みも計画し、近隣貢献が出来るように進めていく（生徒にとっても実践的な教育の機会として計画していく）

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

フィットネスクラブと地域の関わりに関しては、来館した方が簡単に利用できる機器を指導し、その際にコミュニケーションをとるようにしている。寮では、子どもたちを呼んで、留学生が英会話教室を開く事や、地域の祭りの協力など、特別は事よりは今までおこなっていることを継続的に行い、地域とコミュニケーションをとっている。地域との関わりは難しいが普段からのコミュニケーションが大切ではないか。（伊藤委員／中谷委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

業界内就職率、資格合格率は経年でみると右肩上がりになっているため、一定の成果に繋がっている。その要因の1つとして、講師との連携が挙げられ、学校の理念や教育方針の浸透が学校全体で図れてきていることが挙げられる。

今後、より一層の向上を目指すために、専門的な内容の連携、そして、多角化している業界のニーズを把握した教育が求められることから、業界関係者とのコミュニケーションを密にしながら学校運営を展開していく。